###### 隊員支援経費使用報告書

 　　平成　23年　9月　5日

独立行政法人国際協力機構

ラオス事務所長　戸川　正人殿

|  |  |
| --- | --- |
| 派遣区分 | ■青年海外協力隊隊員　　■シニアボランティア |
| 氏　　　名 | 21‐3　米田勇太　（サワンナケート県　ウドムビライセカンダリースクール）22-1　向原愛里(ルアンパバーン県　サティット初等学校)22-1　原田美波(シェンクワン県　ビエントン前期中等完全校　)　23－1　松井美希　(シェンクワン県 カンカイ初等学校）23－1　新井宏　(チャンパサック県 ケオウドム初等学校）23-1　　籾山　あすか　(サラワン教員養成短大)23-1 　高橋　佑華　(サワンナケート県　ポンサワンヌア初等学校）23-1 　岩田　智行　(サラワン県　ナレッ初等学校）23-1 　工藤　沙織　　(セコン県　ノンミサイ初等学校）23-1 　三原　慶彦(ウドムサイ県　ムアンフン・セカンダリースクール）23-1 　小林　明子(ルアンパバーン県　子ども文化センター）22-3　　坊　やえ子　(ルアンパバーン教員養成大学)計12名印 |
| 隊員・派遣番号 |  |
| 派遣国・配属先 | ラオス　 |
| 職種・指導科目 | 理数科教師　小学校教諭　数学教育　青少年活動 |

隊員支援経費を使用させていただいた下記の活動を終えましたので、ご報告いたします。

記

1. **目的：**

10月にサワンナケート教員養成大学(以下、STTC)にて予定されているScience Festivalにて「青年海外協力隊ブース」として出展する算数・数学イベントの企画。なお、当イベントへの参加者は(\*)カニッサート・ディークン会(以下、カニクン)である。

【会議詳細】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月日 | 時間 | 内容 | 司会者・責任者 |
| 8/29 | 9:00-11:30 | ●カニクンの概要説明●坊SVによるガーナでの活動紹介●Science Festivalで実施するプログラムの決定（3単元） | 米田（書記：原田） |
| 13:30-16:40 | 決定した3つのプログラムの詳細を3グループに分かれて各々決定 | グループ①：新井グループ②：工藤グループ③：松井 |
| 8/30 | 9:00-11:30 | 決定した3つのプログラムの詳細を3グループに分かれて各々決定及び全体共有 | グループ①：新井グループ②：工藤グループ③：松井 |

* グループ①：★新井(23-1)、原田(22-1)、坊SV(22-2)、籾山(23-1)
* グループ②：★工藤(23-1)、米田(21-3)、岩田(23-1)、小林（23－1）
* グループ③：★松井(23-1)、向原(22-1)、三原(23-1)、高橋(23-1)
1. **期待される効果・結果報告**

**〈期待される効果〉**

①新隊員が多くなったカニクンで、実際に集まって情報共有ができることは、今までのカニクンの活動を知ってもらうと同時に、その活動理念等を共有し、全員が統一した目標を持つことができ、今後の活動を有意義なものにすることができる。

②現職参加の教師が多いという特徴もあり、ラオスで1年程度活動している隊員だけでなく、全員で意見を出し合うことは、良い授業案、ラオスに適した算数・数学ゲームを考案することができると期待する。

③補足効果とはなるが、話合いを通じてラオスの算数・数学事情を理解することで、各新隊員がスムーズに各自の活動に入っていく際の手助けになると考えられる。

**〈報告と所見〉**

●会議概要

　新隊員を含めたはじめてのカニクン会議ということもあり、まず最初に、今までカニクンが掲げてきた目標の共有を図った。（詳細については、別添のカニクン入門書ご参照のこと。）その後、各自が事前に準備して生徒を楽しませる算数・数学の授業案」の発表となった。また、その際、坊SVに前任地であるガーナでの活動報告をしていただき、途上国における算数・数学教育の難しさや日本で常識とされていることが通じない具体例などを挙げていただき、これから決めていくScience Festivalのプログラムの参考とさせていただいた。

　各自が事前準備してきた活動については、以下の通り。

* 図形領域

・図形パズル　・完成図から順番を予想する(正方形)　・タングラム

・マッチ棒ゲーム（棒を移動して形を変換）

・立体の展開図　　・だまし絵　・ひと筆書き出来る図形を探す

* 計算領域

・手で計算(指すま足し算)　　・３の倍数と３のつく数で手をたたく

・数え上げゲーム(一人３つまで数字を言っていいが、最終的に20を言ったら負け)

・数列クイズ　　　・ペタンク掛け算　　　・虫食い算クイズ　　・分数カルタ

* 数と数量領域

・重さあてクイズ　　・全部でいくつ？(空き缶で立体を組み立て、その缶の本数を当てるクイズ)

・和算（300mlと50mlで70mlを作るなど）　　・うなぎつりゲーム（長さあてクイズ）

* その他

・ヤギとキャベツと狼ゲーム(川渡りゲーム)

この中から、　Science Festivalで行う3つのプログラム(それぞれの領域毎)を決定した。

決定したプログラムは以下の通り。

* 計算領域（グループ①）　　　　・風船割り(割った風船の色の違いを利用した加算の練習)
* 図形形領域（グループ②）

　・立体組み立て（展開図から組み立てる）　・マッチ棒ゲーム　・タングラム

* 数と数量領域（グループ③）　・和算

今後は、それぞれのグループが責任を持って授業案を完成させ、10月に行われるサワンナケートでのScience Festivalに向けて準備を進めていく。

　⇒授業の流れ・ねらい・準備・当日のレイアウトなどをまとめて、メーリスで共有する予定。

●Sceince Festival概要

日時：　10月4日　8:30 – 16:30

場所：　サワンナケート教員養成大学（STTC）

・当日は平日であるが、県教育局の協力により、STTC付近の5つの小・中学校の生徒達が先生引率のもと、課外学習という形でイベントに参加。STTCの教師達があらかじめ、STTC学生に授業案を紹介し、それぞれの学生グループがそれぞれのブースで実験・授業を実施。文化祭のような雰囲気で、子供たちが見たいところに自ら行き、学ぶ形をとる。

・JOCVには２つのブースを与えていただき、決定した３つのプログラムをそれぞれ実施する。

・算数・数学教育のほかに日本文化紹介として、JOCV全員で盆踊りを踊るなどのステージも用意される。

　●所見

当初のねらい通り、現職参加が多い23-1隊員たちのおかげもあり、かなり多くの算数・数学ゲームが候補としてあがってきた。ラオスの子供たちに合う・合わないは正直なところ、やってみないとわからない部分もあるが、1年近くラオスの子供たちを見てきた隊員たちとの話し合いの中で、これならできるという意見のもと、プログラムが選ばれた。こういった意味で、新隊員・旧隊員関係なく、お互いが強みを活かした意見交換ができたように思う。

また、グループに分かれて活動を話し合ったことにより、それぞれのプログラムに対する責任感が芽生え、より良いものにしようと、議論に取り組むことができた。さらに、今回のような短期間の日程の中で、ある程度、各プログラムが形になったことも、グループ別活動の利点であったと考える。

Science Festivalは、カニクンが実施する大きなイベントとしては2回目となる。そのため、前回の反省を活かし、よりよいものを作り上げたいと思う。具体的には、前回は、TTCの試験期間とかぶってしまったこともあったが、現地の教師やTTC学生に対してJOCVの授業を見せる機会が少なかった。子供たちは楽しんでくれたが、それを現地の教師達が自分達で活かせるための仕組みづくりができていなかったように思う。これに対して、今回は、JOCVだけでなく、STTCの学生を巻き込みプログラムを実施することで、私達の作った授業案が、その後に活かされていくことを目指す。そのため、可能であれば参加するJOCVをScience Festivalの当日よりも早めに招集し、私達の授業案をSTTC学生に紹介する特別授業や、日本文化紹介のときに一緒に盆踊りを踊ってくれる有志を集めた交流会を実施したいと考えている。

今回のイベントに対して、サワンナケート県教育局、教員養成大学ともに協力的な姿勢であることもあり、とてもやりやすい環境であると思う。私たちJOCVも、現地の人の期待に応えられるように、確りと準備し、本番に臨みたい。

以上